



連協道路ニュース

発行 横浜環状道路(圏央道)対策連絡協議会 事務局

Tel&Fax894-0052 <http://www5e.biglobe.ne.jp/~renkyou/>

Mail: renkyoueditor@mail.goo.ne.jp

第241号

2009.10.04

新政権の道路行政

JR 西日本事故報告問題は、古い国交省体質そのものであり、旧政府の各種委員会や審議会が全く空洞化している事を見せつけました。つまり公共事業の進捗状況をチェックする「事業評価監視委員会」も同じ目で見なければなりません。先日の「鞆の浦裁判」は極めて常識的な判決で胸がすっきりする思いであり、「環境がいかに大切か、又歴史を積み重ねた社会環境も何ものにも代えられないものである」と宣言した画期的な判決です。これからの道路行政の行方を暗示する道標となるべき出来事です。

新政権は国民目線で公共事業を進めて行くと言いました。つまり今計画中の公共事業がそのような進め方であるか、我々は一緒に監視し続けなければなりません。この手順を踏んで初めて市民参加の事業となり、責任をお互いに果たすこととなります。横環南(圏央道)は20~30年前の古い時代の計画であり、貿易立国として将来を見据え成長の発信基地として先ず交通インフラを整備し、工場、物流基地を配置できるよう計画された高速道路です。住民の生活道路を置き去りにして、高度成長という錦の御旗のもとにスタートさせたのです。事業者は世の中の変化に気づいていたにもかかわらず「圏央道は繋がってこそ意味がある」と建設すること自体が目的化していました。

しかしこの8月、我々は政権交代を選択しました。これまで地方自治体も国の方針に従って高速道路建設を優先させ、生活道路をなおざりにしてきました。住民目線で見れば生活道路の整備が最優先であることは明らかです。自治体が、国に代わって生活道路の整備に入る時代になったのです。これからは今ある高速道路予定地がどのように使われるべきか、沿線住民が計画に参加し、市民運動も方向転換が計らねばなりません。連協の役割も

見直しが必要となるでしょう。先日、国交大臣が公共事業見直しの目玉である八ッ場ダム建設中止を発表しました。続いて高速道路建設にお墨付きを与える国土開発幹線自動車道建設会議を中止し、全ての道路計画は見直すと発表しました。地方整備局等の組織見直しも含まれ、道路行政は混乱を極めるものと予想されます。しかし我々はただ眺めているだけでなく、責任をもって監視し続けなければ国民参加を標榜する政権を選んだとはいえません。

私はこの歴史的な転換期に立ち会えることに感謝するとともに、皆様にも大いに時代の変化を満喫して頂けるよう期待しています。

会長 比留間 哲生

活動報告

- 09/05 全国道路連幹事会(名古屋)
- 09/09 栄区街づくり行動計画検討委員会(第一回)
- 09/16 かながわ連絡会:全国交流集会実行委員会(横浜)
- 09/17 首都圏道路連絡会(新宿)
- 09/24 かながわ大気汚染・道路公害連絡会
- 09/25 新政権、事業評価監視委員会等対応検討会
- 09/30 栄区まちづくり行動計画検討委員会(第二回)

全国交流集会 IN 横浜

10月24日(土)

○高速横浜環状南線の現地見学会 (参加費 2,000円)

10月25日(日)

○全体集会 10時00分~12時00分

基調報告:道路全国連絡会事務局長

基調講演:五十嵐敬喜氏(弁護士、法政大学教授)

「道路は止められるか」

特別報告:西村隆雄氏(弁護士)

「PM2.5環境基準について」

○分科会 13時00分~16時00分

①新政治体制での道路建設の政策転換に向けて(費用便益など新たな基準作りなど)

②行政、事業者における審議会・委員会等の問題点と在り方

③道路計画、工事に関わる裁判事例とその問題点

○全体集会・分科会に集い、道路問題を考えませんか(参加費 1,000円/人)

連絡先:長谷川誠二(連協事務局長)

住所:〒247-0035 横浜市栄区桂台西 2-16-25

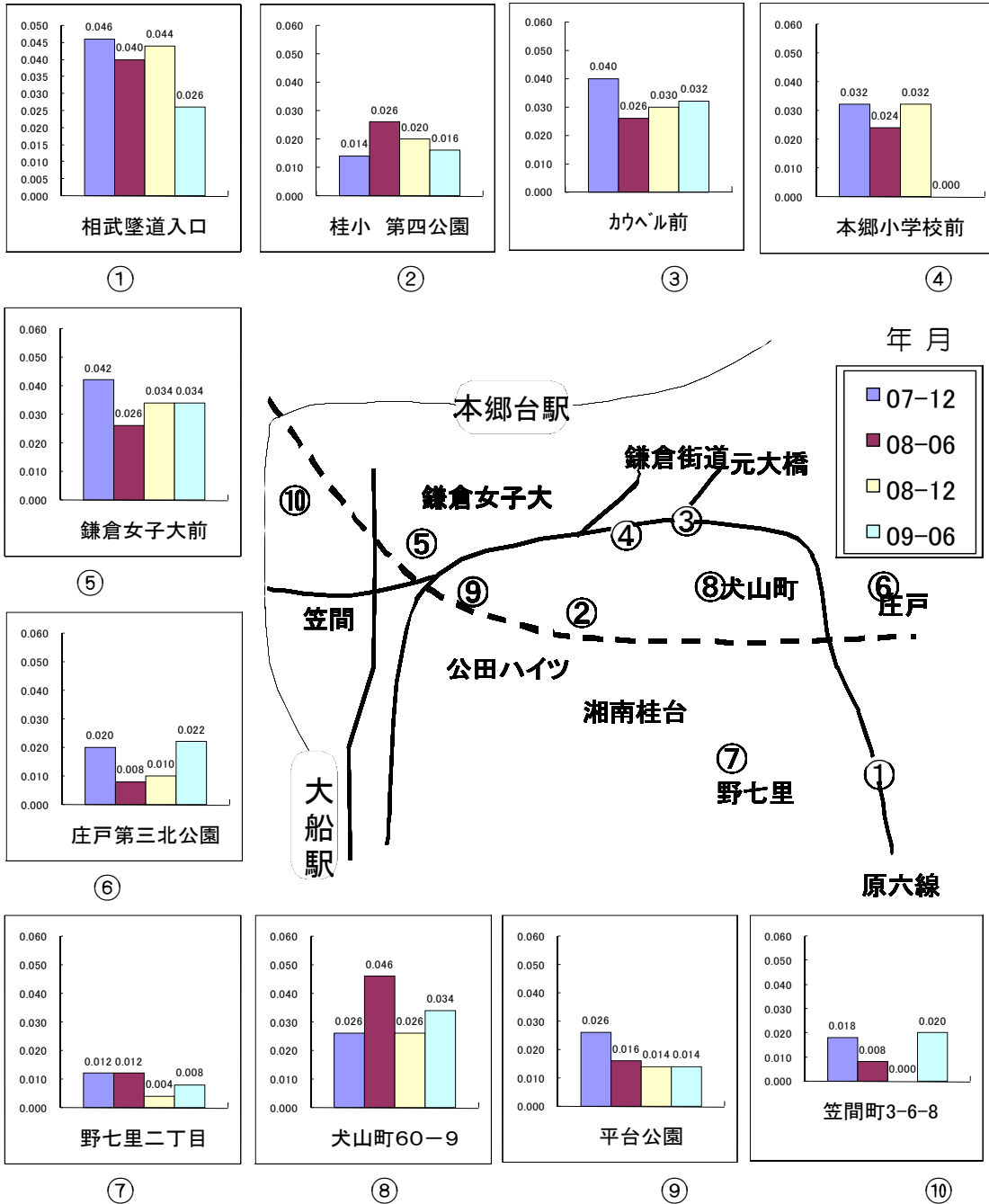
TEL:045-893-4877 FAX:045-893-4836

○会場:横浜市従会館&いせやま会館

TEL 045-241-0005

平成21年6月期のNO₂定点測定結果まとまる

連協環境部では各団体参加のもと、毎年6月と12月の2回第一木、金、土曜日を使って栄区内の定められた場所47箇所に 二酸化窒素の濃度を測定するカプセルを設置して、所謂定期定点観測を続けております。今回は曇り後雨、微風の中での測定でした。
以下に主な測定点の過去4回の測定値とグラフをしめします。



二酸化窒素測定作業

試薬及び試薬付きろ紙は有限会社 筑波総合科学研究所より取り寄せております。
カプセルの準備(木)。カプセルにろ紙をセットし、ひも付きカップ、記録紙と共に各団体に分けます。
測定(木⇒金)。各団体は担当の各ポイントにその番号のカプセルを24時間設置した後回収します。
分析(土)。カプセルに試薬を加えると、ろ紙が吸収した二酸化窒素と反応して赤紫色に着色します。
その濃度をエコアナライザーNoxで測定します。ppmでデジタル表示されます。